

廊(梁行の柱間が1間)と復元されていましたが、「東殿」以南と同じく、複廊(梁行の柱間が2間)であることがほぼ確実となりました。

そして、「東殿」についても、これまでは桁行7間、梁行4間と復元されていましたが、少なくとも梁行については、それよりかなり小さくなることが判明しつつあります。今後、「東殿」の性格についても再検討が必要となりそうです。

細部では何かと疑問点が多かった藤原宮大極殿院の構造を、より整理されたかたちでご報告できる日も近いでしょう。

#### 藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第117次)

大極殿院の東面回廊などを対象とした南区につづき、去年の12月からは、大極殿東方に建つ「東殿」を対象とした北区の調査にはいっています。

この部分は、もとの鴨公小学校・幼稚園の敷地にあたり、それにとまなう攪乱を受けています。そのため、遺構の残りはあまりよくありません。しかし、約60年前に日本古文化研究所が壺掘り調査した成果を、あらためて見直さなければならない多くの知見が得られつつあります。

まず、大極殿院回廊は、従来、「東殿」以北が単



大極殿院「東殿」と大極殿土壇(東から)